

平成25年度

自己点検・評価年次報告書

茨城県立医療大学

## I 年次報告書概要～平成25年度の主な動き～

### 1 理念・目的

本学の設置理念に沿って、前年度に明確化されたアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの3つのポリシーの相互の関係についてさらに調整を進め、『茨城県立医療大学における学士課程教育の全体像』（改訂版）として、全教員に示し共通の理解を図った。

カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを具現化するために行われてきたカリキュラム改定は回を重ね、平成25年度から、特に多職種連携教育を柱とする第4次カリキュラムが学部入学生から導入され、1年次学生を対象とした科目を開講した。学年進行に伴い開講する科目についても、具体的な準備を開始した。

平成22年に設置された大学院保健医療科学研究科・博士後期課程・保健医療科学専攻では、2期目の修了生を輩出し、さらに設置の趣旨に沿って諸規程の整備などが引き続き行われた。

これまで、筑波大学、茨城大学農学部との連携協定が結ばれ、学部学生の単位互換制度導入について準備されてきたが、平成25年度から両大学との単位互換制度が実質的にスタートした。

本学の理念や目的、特に教育の方向性やポリシーについて、教員が十分に理解し、また議論を深める場が必要である。今年度も従来のFD研修会では、大学院研究科としてのFD研修会も併せて開催したほか、また、共通認識を得るよう、特定のテーマについては、IPUミーティングを開催した。

学外有識者により構成される大学運営協議会が平成26年2月に開催された。大学改革プラン前半の成果を踏まえて、主な事業報告と活動計画を大学側より示し、議論が行われた。

本学では学部教育、大学院研究科における教育のほか、地域が求める医療に対応できる人材養成のための教育課程を整備することも使命である。地域で求め

られるより高度な助産師を養成するために設置の準備が行われてきた助産学専攻科は、8月に設置が認可され、入学試験を実施した。また、認定看護教育課程も引き続き、履修者を受け入れたほか、今年度から県内看護師等養成所の専任教員養成のための教育事業（専任教員養成講習会）が本学で開講し、初回受講生25名が課程を修了した。

## 2 教育研究組織

多核的な学生支援を行うため、学科・センターとは異なる横断的な機能を有する学生支援センターとして、先行してオープンしていた教育学修センター、キャリア支援センターに加えて、平成25年度よりアドミッションセンターがスタートし、「支援3センター」体制が整った。また、開設を予定している助産学専攻科の設置準備も行われた。さらに、看護職員の養成に携わる者に対して必要な知識、技術を修得させ、看護教育の内容の充実向上を図ることを目的とする専任教員養成講習会の開講のための準備が行われた。看護実践や教育・研究の統合や茨城県立中央病院との連携推進などを目的に、看護管理支援監を設けた。

## 3 教員組織

教員定員の欠員枠を迅速に埋めるべく、公募や学内昇任を通して、人事が進められた。このため、昇任手続きの迅速化を目的とした内規が定められた。任期制助手として採用された教員に対して更新のための審査が行われた。前年度に試験的に実施した教員評価は、本年度も引き続き、2回目の試行を実施した。大学院関連項目について、教員評価項目に追加すべく、具体的な検討を開始した。

## 4 教育内容・方法

今年度より、新カリキュラム（第四次カリキュラム）が入学生から適応され、カリキュラム改定の中の大きな特色である IPE コース (Ibaraki Inter-Professional Education コース)がスタートした。また、成績素点を基礎として算出する Grade Point Average (GPA) 制度導入を行った。さらに、単位の実質化を目的として、履修科目登録単位数の上限を設定する CAP 制の導入検討を行い、26年度開始に向けて準備を行った。従来通り、教育成果についての検証では、「科目別満足度調査」を実施している

ほか、学生と学長の懇談会なども開かれた。また、個々の科目ごとの教育内容の妥当性検証のため、全学FD研修会や、「IPU ミーティング」が開催された。大学院研究科では、課程修了時に行う教育内容に対する満足度調査を行っているほか、大学院生と研究科長の懇談会を実施し、大学院生の生の声を聴取して、教育成果の検証を行っている。また、修了時に教育内容に対する満足度調査を実施している。また、教員を対象に大学院FD研修を開催した。

## 5 学生の受入れ

平成25年度に開設されたアドミッションセンターが中心となり、高校生向けの出張模擬授業、大学見学会などを積極的に展開したほか、入試成績の解析や入学後の学生の成績のフォローアップ調査をスタートした。また、社会的ニーズを踏まえて、看護学科編入学試験は実施しなかった。学部学生の入学者数の管理について、平成25年度も適正に行われた。今年度より、推薦入試の受験資格を見直し、県内在住者で近隣都県の高校に通学している生徒に対しても受験資格を広げた。

大学院研究科では、社会人対応カリキュラムをアピールするため、大学院入学者案内用のポスターを県内の公共施設等に掲示し、また、社会人の入学希望者のために、大学院説明会を休日に開催している。

## 6 学生支援

「支援3センター」がスタートしたことにより、本学の学生に対して、有機的に連携できる体制が整った。

学長・学生部関係教職員と学生の懇談会を継続し、学生支援を強化している。アクティブ・ラーニングを実現のため、図書館にラーニング・コモンズを整備し、学生の自習環境を改善した。さらに、図書館を中心として、学生が使える構内無線LANの整備を開始した。

就職・進路の指導については、キャリア支援センターが中心となり、卒業生の県内定着率を上げるため、県内病院合同就職説明会のほか、県内病院を巡るバスツアーを実施するなど、学生のキャリア形成をサポートする様々な企画を実施してきた。また、大学院研究科では、博士前期課程での長期履修制度の導入検討を始め、社会人が入学しやすい環境づくりも引き続き、課題として取り組んでいる。保健室利用も多く、学校医が対応しているほか、健康維持のために、

さまざまな広報活動を行った。

## 7 教育研究環境

スキルラボの整備を引き続き行い、利用促進に努めた。大型実習設備の更新のための予算確保に努めた結果、実習棟のMRIを更新することが出来たほか、学外資金を活用して、優先度の高い教育用備品を更新することができた。

倫理委員会では、倫理審査申請をより円滑にできるよう、倫理審査規定を見直し、倫理委員会規定を作成した。また、FD活動の一貫として、研究倫理に関する研修会を開いた。

## 8 社会連携・社会貢献

地域貢献研究センターでは、認定看護師養成課程を継続したほか、看護専任教員養成講習会の教育コースをスタートさせた。また、茨城県難病相談・支援センターを附属病院内に開設した。引き続き、地域研究プロジェクト研究費による地域と連携した研究活動が行われた。附属病院では、地域のニーズに応えるべく、入院患者へのリハビリテーションの効果的な実践を目的として、365日リハ実施に向けての準備を行った。

## 9 管理運営

「茨城県立医療大学のあり方に関する懇話会」からの報告で示された10年間の改革プランの後半5年間に入り、行動計画を年度ごとに具体的に立案する方式をとることとなった。また、外部評価システムとして、学外有識者からなる大学運営協議会を開催した。

FD活動と同様、SD(Staff Development)活動が重要であることから、大学事務職員を対象とした新任者ガイダンスを開催したほか、関係職員を学外のSD関連研修会に派遣した。

## 10 内部質保証

外部からの評価として、大学運営協議会を開き、25年度の活動実績報告を行った。また、2期目の認証評価のための、自己点検・評価報告書作成を行った。情報収集、根拠資料の整備や、報告書編集は自己点検・評価部会が行い、自己

点検・評価委員会では、より高位のレベルから検証を行った。PDCA サイクルが機能するように年次報告書の在り方を検討し、行動計画をベースに、年度ごとの活動と進捗を記載するフォーマットによる報告書作成の 2 年目になり、年度末時点で、同フォーマットを用いて、委員会・部会単位で 25 年度活動実績と、26 年度行動計画を作成することとなった。